

札幌市立西岡小学校の取組【読書：図書館活用授業】

1. 研究のねらい

本校は、近隣に西岡図書館があり、4年生以上の児童全員が札幌市立図書館の図書貸し出し券を持っている。しかし、このように充実した環境にありながらも、子どもたちの図書館の利用実態は、休み時間での学校図書館の利用にとどまり、限定的なものになってしまっている。また、昨年度までの本校の図書館活用学習の課題として、図書館での学びの連続性が不足していることが挙げられていた。そこで、「図書館を学び、図書館で学べる子」を目指すべく、2年生と3年生が、それぞれ西岡図書館と連携した「図書館を学ぶ」学習を行った。以下がそれぞれの学年のねらいである。

- 図書館利用のマナーを学ぶとともに、自分たちが住んでいる地域にある図書館の利便性、面白さなど、図書館の魅力を知る。(2年生 生活科)
- 西岡図書館の工夫を見つけることから、図書館の公共施設としての役割を学ぶ。
(3年生 総合的な学習の時間)

2. 取組内容

(1) 学校図書館での学習

①学校の図書館は誰のため？【学校図書館の調査】

3年生の学習では、まず学校図書館の役割を見直した。頻繁に図書館を利用する子どもも、図書館全体を細やかに見ている子は多くない。しかし、じっくりと図書館を観察すると、図書館には多くの工夫があり、それにより自分たちが利用しやすくなっていることに気が付いた。そして、「その工夫は誰にとって嬉しいものなのか。」という視点をもたせることで、学校図書館の公共施設としての役割に気付けるようにした。例えば、「絵本コーナーの棚が低いのは、低学年のため。」「踏み台があるのは、みんなが高いところの本を読めるようにするため。」など、当たり前にあった物が、誰かのために役立っていることに気付くことができた。

②西岡図書館ってどんなところだろう？【事前学習】

西岡図書館は学校から歩いていける場所にあるものの、利用したことがあるのはクラスの25%ほどである。そこで、西岡図書館がどんな場所であるかを、いくつかの視点で予想した。子どもたちは学校図書館と比較し、「高齢者の利用が多いのでは？」「大人の利用者が多いから、子ども向けの本は少ないのではないか。」「検索機がないと、本を見つけるのが難しそう。」などの予想が上がった。事前に見学の視点を設けたこと、問題意識をもてたことにより、西岡図書館への思いを膨らませた状態で見学に臨むことができた。

(2) 西岡図書館での学習

①図書館調査と図書館の雰囲気から学ぶ【図書館見学】

子どもたちは、西岡図書館の工夫と、それが誰にとって嬉しい工夫なのか、実地調査した。すると、大人向けの本コーナーと子ども向けの本のコーナーの机の置き方が異なることや、学校図書館にはない新聞コーナーなどがあること、子ども向けの本の中には

幼児向けの本などもあることなど、様々な利用者のことを考えた工夫をたくさん見付けることができた。しっかりと視点と問題意識をもって調査することができたのは、事前学習の成果である。また、司書の方に図書館でのマナーや蔵書数についてのお話をいただいた。実際にマナーに気を付けて調査する中で、読書以外で図書館を利用している人の存在にも気付くことができ、「図書館では静かにしなければいけない」というマナーがある意味も実感できたようだ。蔵書数、工夫、マナーの三つの面から、西岡図書館が多くの人に多様な目的で利用されていることを実感することができた。調査の後には、実際に一人一冊ずつ本を借りる活動を行った。すると、本を見付けやすくするために、カラーシールを背表紙に貼っていること、本棚が自分たちの目線の高さに合わせたものになっていることなど、図書館の工夫を実際に利用する中で味わうことができた。



②西岡図書館は西岡の大きな魅力【学習の振り返り】

後日、図書館での学習を振り返ると、子どもたちは図書館が西岡の憩いの場になっていることに気が付いた。「西岡図書館には誰でも安心して入れるように多くの工夫があるよ。」「とてもすてきなところだったので、もう一回行って本で勉強したい。」など、公共施設としての西岡図書館が、地域に果たす役割を3年生なりに考えることができた。また、2年生は保護者も学習に参加し、子どもたちと同様に西岡図書館の魅力を知ることができた。

3. 成果と課題

(1) 成果

西岡図書館の見学だけで終わるのではなく、事前学習を行い、事後の振り返りを行うことで、図書館見学を学びの連続の中に位置付けることができた。さらに、この「図書館を学ぶ」の学習後に、国語で「図書館で学ぶ」学習を設定した。こちらは学校図書館での活動となったが、図書館の工夫を利用しながら本を探す姿が見られた。また、この学習の際に2・3年生全ての児童に図書貸し出し券を作成した。冬休みや放課後に西岡図書館を利用したという子も少しずつ出てきている。

(2) 課題

「誰のための工夫か」という視点を設けたのであれば、利用者にインタビューするなどの方法も有効だったと考える。そのためには1度きりの訪問ではなく、複数回の訪問が必要である。複数回訪問する中で、図書館への親しみを高めたり、図書館をより広く活用したりできたのではないだろうか。また、昨年度の中央図書館での学習では、お薦めの本を廊下に展示することで、図書館見学に行っていない学年も間接的に中央図書館の魅力を味わうことができた。今回の学習では、図書館の公共施設としての役割に気付くことに重点を置いたため、借りた本や図書館の魅力を他学年に広めることはできなかった。学校図書館も含めた図書館活用授業を全校的に充実させていくとともに、学びの成果を広めることを大切にしていきたい。